



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と
男女平等参画社会の形成と促進のために

WAVE 第8号

発行日：2013年3月31日
発行：特定非営利活動法人
M・I・T・O 21
〒310-0851 水戸市千波町508-34
発行責任者：黒澤輝子

5年目を迎えて更に充実した活動を!

理事長 黒澤輝子

今年は厳しい寒さの冬でしたが、例年になく桜の開花が早く、また気温のせいか桜としては長い間花を楽しむことができました。どんな困難なことがあっても変わりなく繰り返される自然の営みに改めて感謝するこの頃です。

4月、新しい年度の始まりです。M・I・T・O 21の活動も5年目に入りました。皆様のご協力に感謝申し上げ、今後の運営にも変わらぬご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ヒューマンライフシンポジウムをはじめ、今年度もテーマを定め、シリーズで楽しんでいただける内容の企画を考えているところです。皆様のご意見、ご提案をお待ちしております。

私たちはまた新鮮な気持ちで2013年度のスタートです。

振り返れば NPO法人として「M・I・T・O 21」この名称に決定するまでに『日本女性会議 2001 水戸』から「ポスト日本女性会議 2001 みた」の活動を7年、それを発展させて、2008年に手続きに入りました。Mは『水戸』mission, Iはidea, innovationのI, Tは『共に』, together, Oはopen, 『日本女性会議 2001 みた』のテーマ「世紀を拓く」からopinion leaderになろうとようやく決定した経緯があります。21世紀を拓く大きな社会変革の中で「M・I・T・O 21」という船は漕ぎ出したのです。

イギリスのサッチャー元首相をはじめオーストラリア、ノルウェイ、韓国と今や国を動かす女性が台頭しています。私たちの設立目的は「平等・創造・平和の理念のもと、人権を尊重し、男女平等参画社会の実現を目指す」です。法人格を持つということは、社会的に責任のある団体になったということ。

男女平等参画社会の形成に向けて、より充実した活動のため結集していきましょう。

茨城県新しい公共支援事業運営委員会 茨城県県民運動推進室主催 紹介 財団法人常陽地域研究センター
ベンチマーキングツアー :平成 24 年 10 月 16 日(火)

内容 :千葉県「連携・協働による地域課題解決モデル事業」採択先の現場視察

- ①住民参加と地域資源の協働による「安全・安心のまちづくり」(千葉市)
- ②安心・安全多次元協働事業～連携・協働の拡大と発展による防災福祉のまちづくり(流山市)

県内視察 :平成 25 年 2 月 12 日(火)

内容 :「提案型モデル事業」採択先の現場視察

- ①新しい公共によるドラゴンロード再生モデル事業(竜ヶ崎市)
- ②移動店舗による買い物支援・生活支援(牛久市)
- ③ [北茨城] 復興支援プロジェクト(北茨城市)

2つの視察を参加要請があり、会員が参加してきたが、まちづくりの協働の取組みは今後の大きな課題である。

目的 現場視察を行うことにより、各事業の内容や進捗について、運営委員の理解を深める。

「きめる、うごく、東北から」日本女性会議 2012 仙台報告

第 29 回日本女性会議 2012 は、東日本大震災の被災地仙台で 10 月 26、27 日開催され、全国より 3000 名を超える参加者が被災地復興への想いをそれぞれ抱きながら参集しました。

内閣府よりの基調講演「男女共同参画政策の現状と今後の課題」に続き、特別プログラム「女性たちが語る 3. 11～これまでと今と」水戸でもおなじみの宗片恵美子さんをコーディネーターに、被災地の女性たちが未曾有の困難を乗り越えどう立ち上がってきたのか、主に支援に関わった女性たち 5 人が振り返りました。

震災直後から避難所としてホテルを提供された南三陸ホテルの女将の奮闘、混乱の中、取材を続けた河北新聞社の若い記者など、生々しい現状とそれらを希望に変える活動を語ってくれました。女性たちの知恵と団結力が困難を乗り越える力を生み出したと思いました。また印象的だったのは、震災と原発の二重の被害を受けた福島の子短大の准教授の「きちんと判断できる選挙民たる女性を育てる」という言葉でした。

翌日の全体会でも、復興とは震災前の状態に戻すことではなく、困難を乗り越え以前よりも更に良い社会を作り上げることと締めくくりました。

日本女性会議 2012 仙台の成功は、女性市長と言うだけでなく、震災直後から被災地の女性を支援してきた企業が全面的にバックアップしたことが大きいと思われます。被災地と言う悲壮感はどこにもなく、ほのぼのの感さえ伺われました。

また、日本女性会議 2001 米との実行委員をしていた阿部明さんが、仙台でもボランティアをしていました。皆さんによるしくとのことでした。（兼子、西野記）

仙台でのひとコマ



わいわい五軒文化祭 11月10, 11日

みと文化交流プラザを拠点に活動している団体の発表、展示をして各々の団体の活動の成果を公開するもので、多くの方々が私たちの活動紹介パネルをご覧いただきました。

晩秋のバスハイク 12月3日

大子町旧上岡小学校校舎で期間限定の里山レストランのイタリア料理を楽しむ。

校舎内で地域おこしの活動をしている白井雅子さんから漆工芸クラブや大子町のりんご、こんにゃく、芋がらなど地域食材を使ってのメニューづくりの取組む話しをお聞きしました。



パパにもできるパーティ料理

平成 25 年 2 月 10 日(日)

「育メンパパ養成のきっかけ作り」と全体会で要望のあった料理教室を開催しました。

M・I・T・O 21 会員の皆さんを始め友人などの協力で無事に開催できたことをこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

講師となり、まず考えたのがメニュー作り。

参加者の対象は小さなお子さんを持つパパ達。制限時間は試食タイムを入れて2時間。簡単に、お子さんと一緒に作れて、ちょっとおしゃれ、というなかなか難しい課題を解決することから始めました。



そこで選んだのがホームパーティーなどで活躍できる鶏レバー、アンチョビとモツァレッタの2種類のクロスティニー（カナッペ）です。簡単といっても、材料を刻むところから始めると、お子さんが一緒ということもあり、時間がいくらあっても足りません。そこで会員の皆さんと相談し、具材は予め下処理をして、参加の皆さんには「作る」ことに集中してもらえるようにしました。作戦は成功。なんとか時間を少しオーバーする程度で抑えることができました。

試食の際には、手打ちの生パスタやサラダと一緒にクロスティニーを召し上がって頂きました。

皆さん笑顔で、「美味しいね」「お酒のおつまみにもなるね」と喜んでいただけました。



家族と一緒に料理をする良いきっかけづくりができて、少しはお役に立てたかなと、私自身とても充実した時間を過ごすことができました。

こうして無事に講座を終えることができましたが、実は大失敗したのが材料調達です。ほとんどの具材はスーパーで手に入りますが、肝心要のバゲット（フランスパン）が前日に揃えることができず、皆さんにご迷惑をお掛けしました。

料理教室を主催している友人に連絡をとり、当日の朝に調達できるお店を教えてください、講座が始まってから揃えるという大変な迷惑をかけてしまいました。本当に皆さんの協力なしにはできなかった講座でした。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。（藤田幸宏）



こんなステキなお料理が
できました

いざという時の備えとして救急車を呼ぶことがこの頃頻繁に起きているという。もしもの時とはどんな時、とっさの時にできることなどを救急普及協会の方に指導を受けようと企画しました。講師は社団法人水戸地区救急普及協会応急手当指導員のお二人でした。

最初にくがお通信という啓発資料の中の赤塚駅構内で起きた心肺停止状態の男性の救助例を紹介、また5分間のDVDで、福井県で女子高生の救える命を、無念にも救えずにAED(自動体外式除細動器)が県内の公的施設へ設置することが広がったという福井県の例から救命の大切さを学びました。

水戸市内でもAEDが204基設置されており、この機器は公共の施設や人の多く集まるところに設置されているので、常に頭に入れておくのとっさの時に役立てることができます。

私たち市民の多くがこの講習を学ぶことにより、救急の必要な人を見かけたら、ためらわず声をかける。①「大丈夫ですか!」、周りの人と協力し安全を確保すること ②「もしもし」などと声かけ、肩をたたき、意識を確認する ③119番通報と、AEDが必要な場合はAEDを持ってくる人をお願いする ④呼吸を確認、⑤胸骨圧迫(心臓マッサージ)、⑥気道確保・人工呼吸という一連の一時救命処置を実習しました。



真剣に取り組む参加者

最後にもう一度5分間のDVDで中学生の野球少年が打球を胸に受けて心肺停止になった例や吹奏楽の好きな夢ある女高生など若い少年少女の意識不明状態の例を振り返り、もしAEDが近くにあったら!救命の知識のある人が近くにいたら!という講師の力強いことばに感銘を受けました。(楢崎 記)

救急救命講習会を受けて

大震災から「早かった」「長かった」という2年の年月を人はどう捉えてきたのでしょうか。災害発生時にどんな場面に遭遇しても、私たちが「多角的支援」そして適切な対応ができるように、第一段階の人命救助(人工呼吸法、AED)等の取扱いについて受講しました。

一分一秒をあらそう命の尊さを意識し、自分がどれだけ勇気をもって、周りの人たちと連携を取り行動できるかが問われる講座でした。

忘れる事のできない大震災でしたが、また起きるかも知れないと不安に生活するのではなく、今回の講習を受け、救急救命の知識を多くの人たちが持つことが大切だと思いました。

今後も機会あるごとに講習を受け、災害時に役立てられるよう身につけていきたいと考えています。(太田 記)

編集後記

年明け早々「女性が幸せにならなければ、日本は平和にならない」日本国憲法24条(両性の平等)を起草し、たびたび来日して女性の権利向上を訴えてきたアメリカ在住のベアテ・シロタ・ゴードンさん死去のニュースがあった。

つい先日イギリスのマーガレット・サッチャー元首相も黄泉の国へ旅立った。

日本女性会議が宇都宮で行われた時の輝いていたお姿…鉄もやがて錆びつくものだが…

省エネ・節電は一人ひとりの努力で少しでも改善していきたい。原発に頼らない政策を早急に望む姿勢を貫きたい。事務局